

令和7年度 長崎市自然環境調査報告書：植物

長崎市自然環境調査委員 中西 弘樹

1. 長崎市から初めて発見された植物

○フトヒルムシロ(ヒルムシロ科)(図1)

県内ではヒルムシロの仲間は、ヒルムシロやオヒルムシロなど何種類か知られていますが、分布などが十分に調べられておりません。溜池が少ない長崎市では珍しいものです。本種は、沈水葉に明瞭な葉柄がないことが特徴で、琴海戸根町で見つけることができました。長崎市では初めての発見です。花穂が他の種より太いことで名付けられました。



図1. フトヒルムシロ

2. 長崎市から初めて発見された外来植物

○メリケンムグラ(アカネ科)(図2)

北アメリカ原産の一年草の外来種です。同じ北アメリカ原産の外来種であるオオフタバムグラとよく似ており、両種とも長崎県に知られています。一般にはオオフタバムグラは乾燥した海浜に、メリケンムグラは水田の縁や池畔など湿った土地に生育することが紹介されている場合が多いのですが、長崎市ではメリケンムグラは海浜に生育していました。熊本県天草でも海浜に生育したことを観察したことがあります。葉はオオフタバムグラよりも幅広く、萼片は4つではなく2つであることなどで区別できます。果実は萼筒に包まれた状態で、散布されます。野母町の海浜に生育し、繁殖していました。有害外来種になる可能性が高いので、かなり除草しました。



図2. メリケンムグラ

3. 発見された貴重植物

○サイハイラン(ラン科)(図3)

山地の林床に生育するややまれな多年草です。野母町権現山で発見しましたが、このような海岸近くに生育していることは珍しいと思われます。葉はふつう1枚で、5月頃に花茎を伸ばし、やや大きな下向きの淡紫褐色の花を多数咲かせます。この形が采配に似ているので、名付けられました。



図3 サイハイラン

○ヒメドコロ(ヤマノイモ科)(図 4)

ヤマノイモ科の植物はすべてつる植物で、県内には 7 種が知られています。ヤマノイモ、カエデドコロ、ニガガシュウの 3 種は、県内に広く分布しますが、その他の種については、分布が限られているようです。ヒメドコロの分布も県内ではよく調べられておらず、筆者は雲仙山系と長崎市の北部の山地で見ただけです。脇岬町でも発見することができました。市内 2 カ所目となります。林縁部に生育し、雄株だけでした。花はふつう初夏に咲きますが、秋に咲いていることもあるようです。



図 4. ヒメドコロ

○シャク

西彼杵半島の北部、西海市にはふつうに見られますが、長崎市ではこれまで池島だけでした。半島側の神浦口にも生育していることがわかりました。西彼杵半島の北部ではふつうに見られるのが、南部では全く見られないのは不思議です。

3. 海浜の有害外来植物

外来植物の種数は年々増加しており、今では恐らく 1000 種近いと思われます。しかし、実際に在来種の生育を妨げるような有害な外来植物は限られています。特定外来生物として指定されているキバナコスモスの場合、長崎県では道路法面とか道端など野生植物がなくなった人為的な場所に生育しているだけで、自然の植生の中には入り込んでいません。したがって、キバナコスモスは長崎県では有害な外来種とは考えられません。ここでは主に脇岬砂丘で見られる自然植生が発達している、あるいは成立しそうな海浜に侵入し、広がっている有害な外来植物をまとめておきます。

○アツバキミガヨラン(ユリ科)(図 5)

観賞用に植えられたものが、捨てられ、野生化したものであり、西南日本の各地の海浜に見られます。長崎県内も同様であり、繁殖は遅いのですが、少しずつ確実に広がっています。地上部を切っても、再生しますし、切った地上部を捨てておいても、枯れることはまれで、そこから発根して定着してしまいます。葉は硬く、先端は尖り、危険ですので、除去作業もしにくい、厄介な植物です。



図 5. アツバキミガヨラン

○ウチワサボテン(サボテン科)(図 6)

観賞用に古く導入されたもので、大きくなり過ぎ野生化の原因となっています。根がなくてもすぐに枯れることはなく、やがて発根し、定着します。海浜では裸地が多く、ウチワサボテンを被覆し、競争に勝つような樹木はないため、成長は遅くとも確実に広がって行きます。侵入初期の段階では取り除くことができて、広がってしまうとトゲがあるので取り除くことが難しい植物です。熊本県の海岸ではかなり広い面積に広がってしまい、自然植生を圧倒して被覆しており、手遅れになってしまった海岸もあります。



図 6. ウチワサボテン

○アロエ(キダチロカイ)(ススキノキ科)(図 7)

観賞用や薬用に古く導入されたもので、寒さに弱いのですが、温暖化の影響で長崎市では今では冬でも枯れることはありません。特に脇岬は暖かいので、繁殖も他の地域よりも早く、かなり広がってきました。まだ全国的に野生化して問題になっている所はないようですが、県内では五島列島の海岸で自然植生を圧倒し、かなり広がっている所があります。トゲはそれほど強くはないので、駆除は可能かもしれません。



図 7. アロエ (キダチロカイ)

○バクヤギク(ハマミズナ科)(図 8)

南アフリカ原産の多肉植物で、美しい花が咲くので、園芸植物として栽培されています。しかし、中部地方以南に野生化しており、特に自然の海岸に侵入したものが問題となっています。長崎県内でも所々の自然海岸に広がっており、密に群生し、自然植生を圧倒しています。乾燥に強いので、海岸では砂浜でも崖地でも広がって行きます。まだ日本では広大な面積を被っているのは知られていませんが、外国では広大な面積を被ってしまっていて深刻な問題となっています。



図 8. バクヤギク

4. 池島の植物

神浦港から西へ約 6 km沖に位置する面積 1.06 km²、最高地点 114.6mの有人島です。かつては探鉱の島として知られ、島の中央部には探鉱住宅であったビルが並び、北部にはぼた山の土で埋め立てた平坦地が広がっています。島の南西部は急峻な崖地となっています。北東部の海岸にはやや広い礫海岸が見られます。

2011 年から個人的に調査しており、市の自然環境調査も合わせて、計 7 回渡島し、これまで 279 種を確認することができました。全島人為の影響を受けた植生で、自然植生は南西部の海岸崖地の低木林を除くと、すべて二次植生であり、林も限られています。人為の影響が強いため、在来種に代って外来植物が多く見られます。

南西部に位置する最高地点の四方岳頂上付近に林が残され、樹種もこの付近に多く見られます。島嶼偏在植物(本土側よりも小さい島嶼に偏って生育地が多い植物)は、サツマサンキライとハカマカズラの 2 種が見られました。島嶼部に欠落している植物としてスダジイが知られていますが、この島にもスダジイ、アラカシが見られませんでした。林が限られているせいかもしれません。

○ハカマカズラ(マメ科)(図 9)

常緑のつる性木本植物で、林を被って生育します。九州南部から北部まで分布します。県南部の島嶼には点々と分布し、北限は平戸市下阿値賀島です。長崎市では脇岬町弁天島、中島、野島、神楽島と池島に見られます。池島では四方岳頂上付近に生育しています。葉は丸く、逆 V 字形の切れ込みがあり、それをはかまに見立てて名付けられました。



図 9. ハカマカズラ

○サツマサンキライ(サルトリイバラ科)(図 10)

東南アジアから琉球列島、九州南部を経て、長崎県まで分布する常緑のつる性木本植物です。沿岸部の林縁に生育し、マント群落を形成しています。五島列島には比較的多くの生育地があります。長崎市では伊王島、神楽島、大墓島と池島に見られます。池島には多く、居住地近くにも見られますが、本土側にはふつうに見られる同属のサルトリイバラはこの島ではほとんど見られません。

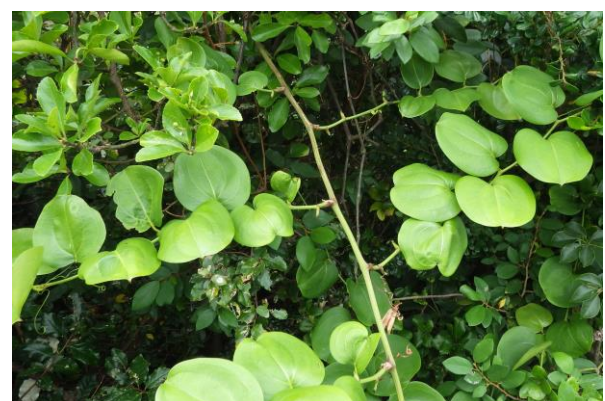


図 10. サツマサンキライ